

見せる・隠すのメリハリをつけたリフォーム

〇様邸

施主様からの要望は「クローズにして、外からリビングへの視線を遮ってほしい」。しかし、ただクローズにしてしまわず、庭の見せてもいい部分と隠したい部分に合わせて、塀の高さや材質を変え、メリハリをつけました。庭にはベンチや大きめの立水栓を設置して、ご家族が楽しめる空間に。



【塀の段差】
リビング前の塀は一段高くなって、視線を遮り、プライバシーを守っています。



【塀の裏はベンチに】
リビングの窓の外に、濡れ縁と対面するように設けられたベンチ。お子さんが外遊びで利用したり、プランターを置いても。



【思い出の手形】
塀にはめ込まれたガラスブロックは、内側にお子さんたちの手形が彫られています。家族の大切な思い出になる、遊び心たっぷりのアレンジ。



【エクステリア全景】
建物の壁面と塀の色を一緒にせず、それぞれの色が引き立つような組み合わせに。塀の塗り壁と木製のコントラストが美しいアクセントになっています。



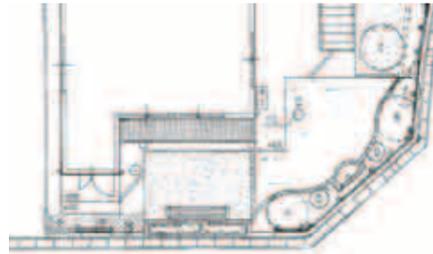
【門まわりの工夫】
スペースのない門まわりに重宝な引き戸の門扉。門柱の下の小窓は、この位置に水道メーターがあるため。こうすれば水道の検針も外からできるし、おしゃれなフポイントにもなり一石二鳥。



【オリジナルの立水栓】
奥の芝生の庭には、レンガを積んで立水栓をつくりました。夏はお子さんの水遊びの場にも。



BEFORE



【エクステリア全景】
白い片側門柱と、グレイッシュな木製のタテ柵の塀、そのコントラストが美しいエクステリア。穴あきブロックの透けた感じが軽快。

透かしの塀、遊び心の和の庭

H様邸

写真館を経営する施主様は、広い敷地の奥にはスタジオも併設。敷地内に車が入り出すので、目隠しの塀を設けました。ただし圧迫感がないように透けたものを使用。エクステリアは基本的に「全部おまかせ」だったので、和の庭など遊び心たっぷりに提案しました。今後、あいている敷地に野外スタジオとしてパティオをつくる計画もあるとか。



【新感覚の和の庭】
長方形の石は六方石、ベンチにも使えます。水鉢をつくばいふうに置いて雰囲気づくり。



【丸瓦+白砂利でアクセント】
和の庭の砂利には、こんな遊び心も。丸い瓦の中に白砂利を入れて。

【和の庭の植木】
植木の植え方もユニークで、オブジェのよう。



【片側門柱】
2枚の高低差がリズムカルな門柱。玄関のさりげない目隠しも兼ねています。



【タテ柵の塀とリビングデッキ】
外からの視線を遮りながらも、柔らかな曲線と透かし具合が絶妙で、重くならない仕切り。タテ柵の塀の内側は、樹木の大鉢とリビングのデッキがあります。

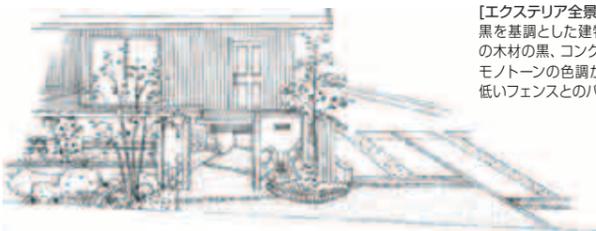


【タテ柵の塀とリビングデッキ】
外からの視線を遮りながらも、柔らかな曲線と透かし具合が絶妙で、重くならない仕切り。タテ柵の塀の内側は、樹木の大鉢とリビングのデッキがあります。

端正なモノトーンの新和風エクステリア

K様邸

「古民家風の建物に合わせた雰囲気」という要望にそって、モダンな新和風のエクステリアを提案。プランは何社か競合しましたが、デザインを一番気に入ってくださり、実現にいたりしました。家のデッキに使った木材の廃材を利用して、フェンスをつくったことも評価されたようです。建物のダイナミックさを生かしたシンプルなおープン外構です。



【エクステリア全景】
黒を基調とした建物に、門柱の白壁、要所要素の木材の黒、コンクリートや砂利のグレーなど、モノトーンの色調が絶妙に調和。大きな屋根と低いフェンスとのバランスも見事です。



【門から玄関へのアプローチ】
白い塗り壁と枕木をあしらった端正な門柱が印象的。曲がりくねった道なので、玄関までの奥行きが深く感じられます。



【ブロック塀の笠木】
ブロック塀の上にはデッキの廃材を利用して、笠木ふうにする。こうするとブロック塀もチープに見えず、ナチュラルで落ち着いた雰囲気のお庭に変身。



【植え込みの緑石には瓦】
塀の外側は植物の植え込みに。緑石には屋根瓦が使われ、和の雰囲気をつくっています。



【デッキの廃材をフェンスに】
家のデッキに使って残った廃材を、横木として再利用したフェンス。デッキとの統一感も。